



曹洞宗管長  
大本山永平寺貫首

福山諦法

# 常に法輪を轉ず



## 梅花新聞【香里】 第30号

題字 管長 福山諦法 禅師  
発行者 瀧 英 徳  
発行所 曹洞宗宗務庁  
企画編集 伝道部詠道課

### お誓い

- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讚歌を通して、明るい世の中をつくります。

何時でも何処でも申ししていること

ですが、高祖さまがお伝えくださった仏法は「仏教」ではなく「仏道」です。仏教とは文字通り仏さまの教えですが、「教え」は何のためにあるかといえば「実行」するためにあります。

お釈迦さまの「端坐六年の蹤跡」、つまり六年間菩提樹下で坐禅されて説かれたみ教えは「天地の道理」「真理の姿」です。私たちはその教えを受け継いでいます。「教え」は頭の中で理解するだけでは観念の仏法です。教えは実行するもの、それが仏道です。

梅花流詠讚歌は、昭和二十七年高祖大師七百回大遠忌を機に発足しました。平成十四年道元禅師七百五十回大遠忌円成からすでに六年、今年で五十六歳を迎えます。創設期の先徳のご苦労と、詠讚歌を通して我が宗門の教えを実践相続された講員皆さまの「実行」が、今日の梅花流詠讚歌の繁栄の姿に他なりません。



『寿』

「威儀仏法、作法宗旨」という言葉があります。詠讚歌は、大勢の方が心一つにし、作法一つにし、声一つにすることによって成り立っています。「正」しいとは一に止まると書きます。真理は一つです。詠道は真理の実行です。

更に大切なことは、これを次の世代へ相続して行くことです。つまり「伝える」ということ、皆さまの精進によって未来永劫に詠讚歌が講員皆さまの安心の基となることを切望いたします。

永平七十九世 福山諦法

55<sup>th</sup>

# 梅花流創立五十五周年記念奉讃大会



▲さいたまスーパーアリーナ

平成十九年五月十五・十六日、「さいたまスーパーアリーナ」を会場に梅花流創立五十五周年記念奉讃大会が盛大に開催されました。晴天に恵まれた会場には、両日で全国各地より一万六千人有余の梅花講員と檀信徒が参加いたしました。

## 第一部 開会式

大梵鐘が鳴り響き、幻想的な光に包まれて大会が始まりました。舞台上に設置された大画面に展開される社会情勢や現代人の憂い、そして一瞬の静寂の後、荘大な音響と共に三尊佛が眩しく照らし出されました。坂村真民の詩の朗読、次に駒澤大学合唱団による「まごころに生きる」の歌声が会場いっぱい響きわたり、歌声が終わると同時に会場内にひらひらと花びらが舞っています。「散華」です。思わず場内からは感嘆の声が上がりました。

その後、ご本尊さまに園児たちが献灯献花を行いました。小さな手で灯と花を供えて合掌礼拝。続いて、副大会長である



▲園児による献花（興善寺幼稚園）

河村松雄伝道部長が開会の宣言をされました。

お誓いは、第一日目が埼玉県芳林寺梅花講竹内富子さん、第二日目は埼玉県光明寺梅花講



▲第1日目／お誓いの竹内富子さん

大高映子さんがそれぞれ奉唱司をおつとめされました。



▼第2日目／お誓いの大高映子さん

## 第二部 記念式典

記念式典では大会長瀧英徳宗務総長より式辞が述べられ、続いて表彰式へと進みました。大道晃仙禅師さまが再びご入堂され、奨励賞、年功賞それぞれ六名の代表者に表彰状が授与されました。（両日で二十四名が表彰）

### ■奨励賞、年功賞を代表授与された方々

奨励賞 (奨励賞受賞者) 4,185名	15日	栃木県豊栖院 黒尾チエ 静岡県蔵雲院 柴山より 京都府光明寺 大槻つや子 山口県岩崎寺 武田秀義 北海道天童寺 服部良子 山形県宝泉寺 村上千弥子
	16日	東京都龍昌寺 高橋富江 静岡県竜興寺 高山とよ 岐阜県東門寺 清水富子 奈良県普門寺 木谷マス子 長崎県西連寺 竹添久子 福島県慶徳寺 斉藤アキ子
年功賞 (年功賞受賞者) 11,835名	15日	千葉県宝林寺 加曾利季知 静岡県弘徳院 大野敏子 青森県宗全寺 大野みよ 福井県大本山 永平寺 山口としを 新潟県竜源寺 村山イチ 山形県永林寺 白田おつる
	16日	群馬県仁叟寺 志賀大 神奈川県安養院 田口久江 三重県光明寺 大川熊重 大阪府黄梅寺 赤坂千江子 愛媛県宗光寺 三好幸 茨城県大雄院 大森京子

▲表彰式／賞状の授与

## 第三部 新曲発表



▲新曲発表『新亡精霊供養御和讃』の発表



新曲『新亡精霊供養御和讃』が発表され、客席では記念品として配られたばかりの教典を開いて熱心にお唱えする姿が多く見られました。



▲宮崎奕保禅師



▲大道晃仙禅師



▲相見の拝

記念法要は、曹洞宗管長大本山總持寺貫首大道晃仙禅師に大導師をおつとめいただき、物故者追悼法要は、大本山永平寺貫首宮崎奕保禅師が大導師をおつとめなされました。法要後、両大本山の禅師さまと副貫首さまが参加者の皆さまと相見のご挨拶をなされ、管長猥下よりご垂示（おことば）を賜りました。



▲式辞／大会長 瀧英徳宗務総長





深めようみ佛の絆を・まごころに生きる

平成十九年度  
宗務庁主催

# 梅花流檀信徒

講習会

永平寺様には宮崎県久我経二師範を、總持寺様には山形県藤原知雄師範を主任講師にお迎えして、開催した講習会には各講師たちの心のこもった講習会となりました。参加した皆さんのお声をご紹介します。



## 大本山永平寺

十月二十九日～三十一日

◎大本山永平寺で受講したご感想は？

鳥取県 慶寿院講 畑中康子さん  
帰るときには、少し上手になった様な気持ちで心はずむ思いです。  
東京都 曹源寺講 佐藤きよ子さん  
宮崎奕保禅師さまのお写真に厚く深い御徳を感じ、手を合わせていただき感謝しております。  
三重県 観音寺講 上村敏子さん  
おつとめの折、雲水さんの入場される姿に圧倒されました。畳のすり足、絹づれの音が美しく聴こえ本当に感動いたしました。



▲ 諸堂拝観 仏殿



静岡県 昌溪院講 小林ちなみさん  
若い雲水様方の接待をはじめ行動には、ただただ頭が下がります。皆様、健康に留意されてご修行ください。



▲ 坐禅 大講堂



▲ 右から久我経二主任講師、佐川龍弘講師、三浦信孝講師、山中律雄講師



## 大本山總持寺

十一月七日～九日

◎大本山總持寺で受講したご感想は？

秋田県 龍淵寺講 御所野恵美子さん  
裕次郎さんのお墓参りをさせていただいたこと、思い出となりました。  
北海道 満福寺講 遠野妙子さん  
おとなりの人とすぐに親しくなり、みんな、みんなが身内のようです。お庭で採れたみかんをご馳走してくださいととてもおいしかったです。  
兵庫県 墨染寺講 尾野修子さん  
昨秋、菩提寺にて盛大な晋山式が行われ、台所のお手伝いをさせていただきました。若い雲水さんが私の名札を見て墨染寺の方ですか？ 去年お手伝いに寄せられました。ありがとうございました。去年お声かけられ嬉しかったです。境内の広さに驚き！ 紅葉はちよっぴり早いかな？ 初めての参加で、気持ちに余裕がなく落ち込む毎日でしたが、日々の生活を丁寧にして行くことの大切さを学びました。  
愛知県 秀伝寺講 佐久間信子さん  
總持寺様の山門に入ってきた時に四歳くらいの子が「オハヨウ！」と声をかけてくれました。思わず笑顔になりとても素直な気持ちになりました。



▲ 諸堂拝観 大黒尊天

青森県 常光寺講 岡部けい子さん  
六歳の孫がお盆に遊びに来たとき、木魚と鐘がすっかり遊び道具になり「なむしゃかねんぶつ」と拝みます。「こはんですよ」と言っても気のすむまで唱えて「あーあ、おじいちゃんに聞こえたかな？」と言うので皆で笑うと同時にホロッとしました。  
長野県 大徳寺講 永井久子さん  
お父さんとお母さん、私はまごころに生き、生かさせていただいている今日、生きとし生けるもの全てに感謝します。  
静岡県 貞心寺講 磯部志満子さん  
声帯を痛めた時、「お母さん、歌も御詠歌もやめなさい！」と言われ「治ったら歌いまくってやる」と言って大笑い。家族のやさしさにまごころを感じます。  
新潟県 龍谷寺講 今成愛子さん  
我が家の孫は小さいときに般若心経を唱える事を覚えました。かわいく目をつむり両手を合わせる姿は実にかわいいです。子育ての幸せをまごころをもって願います。



▲ 講師とお茶を飲みながらの休憩時間

◎あなたのまごころに生きるとは？



▲ 精進料理をお作法とおりいただきました

◎梅花を通してみ佛の絆は深まりましたか？  
奈良県 正法寺講 中西宮子さん  
「喜心」「老心」「大心」この心は両親が導いてくれた教えと同じでした。子や孫達にみ佛の尊さや、佛心を伝えていくよう更に努力し歩み続けたいと思います。  
岩手県 円通寺講 佐藤淑子さん  
毎朝お灯明をともし、般若心経と御詠歌をお唱えするなか、在りし日のお姿が浮かびます。お灯明のゆらぎに亡き人への想いが届くような気がいたします。  
岐阜県 林昌寺講 沢田むらさん  
朝一番で仏前にお参りし、詠讃歌をお唱えします。そのお陰で孫も仏前にお参りしてから朝食をいただくようになりまして。ご先祖さまもきっと喜んでくださいます。  
京都府 莊嚴寺講 新宮美佐尾さん  
主人を、両親を想いだして一心に新曲をお唱えし、めぐらし手向けにお祈りしています。毎日の慕参で手を合わせている時が一番落ち着きます。



▲ 講習風景

■深めようみ佛の絆を

新潟県 諸上寺講 鈴木サヨ子さん  
み佛の絆、家族の絆をもってお唱えしています。一生懸命ご先祖様を大切にしている姿を見て孫達にもつながっていくよう祈ります。  
福井県 永建寺講 加藤智子さん  
梅花をはじめからのみ佛の絆は、心から感謝する事、ありがたの気持ち、そして優しくいたわる生活です。  
神奈川県 大本山總持寺講 八木悦子さん  
ギックリ腰にもかかわらず参加いたしました。が四人の先生、雲水さん、受講されている皆さんの親切なご手配に感謝しています。これもみ佛の絆です。



▲ 雲水さんに布団作務の指導を受ける

■まごころに生きる

陰様で色々なことにおいて人生の進路を見つけていくのに役立つております。  
佐賀県 一真院講 皆良田静枝さん  
佛さまにお参りする時は必ずまごころ込めて御詠歌をお唱えします。私は佛さまに話しかけながらお唱えしますがご先祖さまもニヤニヤ笑っているのではないかと思います。  
山形県 龍蔵寺講 今野道子さん  
毎日の生活そのものが修行、足元を見る、花も根が大事、生きてる今を愛してゆきます。 合掌



▲ 講習風景

宮城県 龍雲院講 吉田しとみさん  
梅花に触れて、まごころに生きる。お



▲ 雲水さんと閉講式の注意事項を確認

■「本山での講習会に参加してみませんか。毎年、四月に開催日が決まります。詳しくは所属講の講長さんを通して宗務庁にお申し込みください。対象は中教導以上の講員さんで各梅花講三名まで受講ができます。なお、定員に達し次第締切りとなりますのでご注意ください。

# ● 歓迎のごとば ●



福島市長  
瀬戸孝則



## ようこそ「花もみもある福島」へ

本年五月二十八日・二十九日の両日、福島市の「福島県営あづま総合体育館」にて開催されます平成二十年度梅花流全国奉詠大会に参加する一万一千人余名の梅花講員の皆様を心から歓迎申し上げます。

本市は、西にそびえる雄大な吾妻連峰、東のなだらかな阿武隈高地に抱かれた盆地の都市で、まちの中心部には、緑豊かな信夫山があり、白鳥の飛来する阿武隈川が南北に流れる、自然豊かで人情味あふれる、美しい福島県の県都でございます。

特に、花見山を代表とする春の花、そしてくだもの実りや豊富な味覚、美しい秋の紅葉といった豊かな自然を生かし、「花もみもある福島市」を統一テーマとし、さまざまなイベントを組み合わせて、人や町を元気にする取り組みを行っています。

全国各地からお越しいただく梅花講員の皆様には、本大会を機会に本市の自然や産業、文化に触れていた



▲「あづま総合体育館」  
平成20年度梅花流全国奉詠大会会場

だき、住んでよし、訪れてよしの福島市を満喫していただければ幸いです。

おわりに、本大会の開催にあたり、ご尽力されました関係の皆様にご心から敬意を表しますとともに、本大会のご成功とご出席の皆様方のますますのご活躍とご多幸を祈念申し上げます。歓迎のごあいさつといたします。

## 深めようみ佛の絆を 〜講員さんからのお手紙〜

詠道課様、梅花への感謝を書き残したく思いましてお手紙を書かせていただきました。

私は重い病気でいつ死ぬかわからないと告げられ、ついには心臓が悪くなり開胸手術を受けました。生死をさまよいながらやっと気が付いた時、頭に浮かんできたのは有り難い御詠歌でした。

数年後、突然耳が聞こえなくなりました。不自由になってからは夫に支えられてお寺に行き、方丈さまをはじめ、奥さんや講員さん方にとっても親切に見守られ、講員さんの手や口の動きに合わせて声を出してお唱えをしています。一日でも長くお唱えができることを祈って、梅花と共に生き抜こうと思えます。この道に励むことは私の生き甲斐です。病気をするまでは人の気持ちがわかりませんでした。もし同じ悩みをお持ちの方がいたら心の中でお唱えしてほしい。日々の修行をさせていたただいている私には、生きる力が伝わってきます。

長い年月、夫婦で御詠歌を続けられたことに感謝します。

ありがとうございました。 合掌

広島県宝泉寺講 横尾宮子(八十三歳)

## 編集後記

ある指導者養成講習会のお話を紹介します。



高齢で入院した講員さんには身内の方をはじめ、多くのお知り合いがお見舞いに来られました。心配する方たちに「私にはいつでもお釈迦さまや観音さまが一緒なのよ。もしもの時でも一人で逝くんじゃないから大丈夫！ 悲しまないでね。」と「聖号」を口ずさみます。

そのうち病室の全員が講員さんと一緒にお唱えをするようになり「聖号のおばあちゃん」と呼ばれるようになりました……

講員さんは正しい信仰と仲良く生活を実践して明るい世の中をつくりました。すばらしい法悦につつまれた人生を送り、本当に幸せだったことでしょう。

皆さんもみ佛の絆を深め、まごころに生きてください。ご本山では取材にご協力いただきありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。掲載できなかつたお話がまだまだ山ほどあります。是非お友達や若い世代に梅花流の幸せをお伝えください。

そして、元氣いっぱい全国大会にご参加ください。心よりお待ちしております。

詠道課 Y記 合掌



曹洞宗は「グリーンプラン」推進のため、再生紙を使用しています。

曹洞宗のホームページ「曹洞宗ネット」で詠讃歌がきけます。

<http://www.sotozen-net.or.jp>

南米ブラジルの梅花講員さんたちや、大本山永平寺、大本山總持寺を始め、各地方の僧堂でご修行中の雲水さんに、眠っている法具がございましたら寄贈してください。

◆送付先住所 〒105-8544 東京都港区芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁伝道部詠道課 宛